

騰が続く中、塾や習い事などの費用負担の大きい中学生を養育する世帯の家計を支援するため、令和4年度に引き続き、中学校全学年の給食費無償化を実現します。

共働き世帯への支援としては、保育所や学童保育室における待機児童ゼロを堅持するとともに、小学校6年生までに対象を広げた病児・病後児保育事業、民間保育所に対する本市独自の運営費補助事業などを継続していきます。

地域共生社会の実現に向けた施策としては、属性を問わない相談支援、社会参加への支援、支え合いの地域づくりへの支援を一体的に実施する重層的支援体制への移行準備を着実に進めていきます。

高齢者福祉の分野では、シルバー人材センターと連携したひとり暮らし高齢者の見守り事業を開始し、同世代による定期的な訪問や交流を通じて、心身の状態の変化を把握しながら適切な支援へとつなげていきます。

交通弱者への支援としては、市内循環バスの運行やデマンドタクシー事業、生活路線バ

スへの支援などにより、市民の日常生活を支える交通手段を確保していきます。



市内循環バス

●「快適に暮らせるまち」

の実現に向けた施策

快適に暮らせるまちとは、安全・安心に暮らせるまちであり、生活インフラなどの住環境が整ったまちであって、豊かな自然環境に囲まれたまちです。そして、快適なまちの実現こそが、市政運営の信念である市民第一主義を具現化するものです。

まず、喫緊の課題である新ごみ処理施設の整備については、早期の施設整備に向けて、これまで順調に進展してきました。昨年4月の行田羽生資源環境組合の設立に伴い、今後の施設整備については、組合が主体となって進めていくこととなりますが、令和5年度

と令和6年度は、新施設建設に向けた取組が本格化することとなります。

ごみの減量化や資源化など、引き続き組合や羽生市と緊密に連携し、安定的なごみ処理行政の実現を図っていきます。

次に、災害に強いまちづくりのための施策としては、校庭貯留施設の整備や排水機場の設備更新、田んぼダムの整備のほか、県が進める忍川の河川改修に伴う橋りょう架け替え工事の負担金の措置など、浸水対策を総合的かつ計画的に推進していきます。

また、防災行政無線操作卓を更新し、防災行政無線やアラートの内容を、ホームページやSNSに自動発信できるようにすることで、警戒情報や避難情報の迅速な発信を行うしていきます。

また、踏切を通行する歩行者等の安全を確保するため、中央市内の秩父鉄道行田市No1の踏切道の拡幅工事を、令和5年度から2力年で実施するほか、児童・生徒の安全を確保する通学路の安全対策についても、引き続き実施していきます。

●「賑わいあふれるまち」

の実現に向けた施策

古代から現在に至るまで多彩な歴史に彩られた行田は、魅力ある観光資源、歴史資源、文化資源にあふれ、こうした資源の集積が、行田ならではの景観を形成していきます。こうした資源を行田の強みとして最大限活用し、もったにぎわいのあるまちにしていきます。

まず、都市拠点のにぎわい創出に向けた施策として、八幡通りにおいては、まち並み景観形成事業や、毎週日曜日の行田はちまんマルシェの開催を継続していきます。特に、はちまんマルシェについては、「マルシェの学校」の開催により運営を強化するとともに、目玉商品を開発することで、さらなる賑わいの創出を図っ



秩父鉄道行田市No1踏切

ていきます。

本丸児童公園の蒸気機関車については、クラウドファンディング型ふるさと納税や企業版ふるさと納税を活用して塗装・修繕を行い、全国の鉄道ファンをはじめ、行田市を応援してくれる方々の力を借りて、貴婦人と称された在りし日の姿をよみがえらせます。

水城公園については、中心市街地の憩いの場所として、誰もが安心して日常的に利用できるよう東側園地の再整備を着実に進めていくほか、総合運動公園においては大型複合遊具を更新するとともに、つるまき公園では、障害の有無にかかわらず、誰でも一緒に遊べるインクルーシブ遊具を新たに設置します。



本丸児童公園の蒸気機関車

【主な質疑】

○水泳授業委託事業